

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑あふれる炭鉱町。川が流れる音や、野鳥の飛来も楽しみ、大きな木々が四季折々の自然の変化を楽しませてくれる場所です。外には畑や花壇もあり、入居者様が主体的に苗の手入れをし、時には美味しい一品にしてください。施設内は暖色系の照明を使用しており、対面キッチンで、料理の音や匂いも感じていただけるように、家庭的な雰囲気演出しています。また通路は柔道畳を使用。転倒時の緩衝剤にもなっており、今までも畳の上で転倒された方もいましたが、骨折した方ははいっしょいません。

スタッフのほとんどが、介護福祉士、認知症ケア専門士の資格を有しており、ケアや日常生活のリハビリなどを通して、専門的な知識をケアに反映させながら、家庭での生活の延長場となるように、日常生活の支援をしています。他にも緩和ケアである、タクトールケアの有資格者も数名いるので、緩和ケアも大切にしています。その他にはアセッサーという介護技術評価員の有資格者もあり、適切に評価、指導を行いながら現場に活かせる様にしています。また、今年度の事業所目標は「共に笑顔で」「共に想い合い」「共に支え合う」を掲げ、理念に沿った支援を行いながら、入居者様、ご家族様の尊厳、意向を随時伺いながら、人との関係性を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は山々に囲まれた地域に有り、敷地の裏側には川が流れせせらぎの音が心地よく、自然豊かな静かな環境に恵まれている。近くには全天候型多目的施設が併設された宿泊できる温泉施設や道の駅があり、祭りの開催時には利用者が無参加し地域との交流を楽しむことができる。建物は平屋建ての2ユニットで行き来がしやすく、見守りの強化にも繋がっている。利用者は、事業所が飼育する小型犬や熱帯魚、花壇や菜園の世話を楽しみながら、家庭的な生活を過ごしている。事業所は新しい技術の取り入れに積極的で、日々のケアの記録にパソコンを用いているため、利用者一人ひとりの状況を職員全員が把握しやすく、業務の効率化にも力を入れている。インターネット環境も整えており、オンライン会議や外部の配信講習を受けたり、運営推進会議を行う際には関係者へアンケートを実施し、コロナ禍においても外部との繋がりがや情報を得るための工夫を凝らしながら、より良いケアに繋げるよう取り組んでいる。職員同士は雰囲気がよく、気軽に話し合える関係にあり、活発な意見交換をしながらが介護に励んでいる。コロナ禍での面会は、状況に合わせて臨機応変に対応しており、玄関横の事務所スペースを面会場所に変更し、利用者の居住スペースに外部の人が入らないよう感染対策にも配慮している。

自己評価します

1

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが理念を覚え、理念に基づいて目標を設定し、その目標に対しての評価を行っている。評価は別紙に記載し、職員間で共有できるようにしている。	理念は職員や来訪者の目の付きやすい玄関ホールに掲示し、年度毎に目標を定めるとともに月ごとに重点的に取り組む項目を定め、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響が続いており、町内会や市の行事がのきなみ中止となり、地域との交流が中々行えていないが、訪問美容にて対策を講じながら、市内で馴染みの方も多い美容室の方に来てもらい、交流している。	町内会に加入し、自治会長の運営推進会議への参加や管理者や職員の自治会総会への参加や清掃活動への参加など、コロナ禍であっても地域との関係が途切れないよう交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響で運営推進会議の開催は書面で行っていたが、機会を見て今年度は1度会議の開催を行っている。運営推進会議の参加者には定期的にアンケートを郵送し、意見を伺っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来、定期的に運営推進会議を開催していたが、コロナウイルスの影響により、従来通りの顔を合わせた会議の開催ができていない。現在は、アンケート等書面でのやりとりを行い、郵送していただく形で実施している。10月は人数調整し数名で会議を開催。	コロナ禍のため、状況を見ながら対面で行えない場合は定期的に書面会議を実施している。関係者には前もってアンケートを送付し、アンケートで得た質問や意見について事業所内で話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況等の報告の他、生活保護の方の状況等の連携もしている。また、コロナウイルス関係で消毒液やマスク・手袋など、必要品を市等からいただき、必要品等の情報共有を行うことができる。	日常的に、市保健福祉課・地域包括支援センターとの連携があり、協力関係を築いている。管理者は地域包括ケア会議に参加し、医療や介護に係る人々との交流を図るとともに、意見や情報の交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束に対する理解を深めてもらうため、年に2回の内部研修を行い、アンケートや報告書を提出してもらうことで職員の意識を高め、身体拘束について改めて再確認出来る機会を作っている。また、定期的に不適切なケアをあげ、その原因と対応方法について話し合いを行っている。	3か月に一度、ななかまど美唄館とオンラインで身体拘束適正化委員会を実施し、両事業所の事例を報告し合いながら、身体拘束をしないケアへの知識と理解を深めている。今年度は外部研修もオンラインで開催され、参加している。玄関の施錠は夜間の防犯目的のみ行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても全職員が参加できるように年に2回内部研修を行っている。日常的に入居者様の身体の状態を確認し痣や熱感などの異変がないか職員間で情報共有を行い、防止に努めている。自己点検シートなど今後も定期的に取り組んでいく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修には参加していないが、成年後見制度や権利擁護については、基本的人権や当たり前の権利とは何か？尊厳についてなど認知症についての勉強会、虐待研修などで触れ、学びの場を作っている。また、関係機関に連絡する事ができる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には見学のほか、契約書等の必要書類、文章を用いながら具体的に説明し、理解を得られるようにしている。改定時等も、改めて署名捺印いただき各家族に説明し、ご理解を頂けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は去年度引き続き書面での開催となっており、家族へアンケートを取ることや、ご来訪時や電話連絡時、毎月最低1回はご意見を伺えるようにしている。他には意見箱を設置し、意見要望等反省できるように積極的に取り組んでいる。	利用者とは日々の会話や表情で意見や要望の把握に努め、職員全体で共有している。家族とは、電話連絡時や来訪時、運営推進会議用アンケートで意見や要望を積極的に聞き取り、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や終礼、申し送り時、毎月のケア会議時や、年に2回の職員面談など、職員の意見を聞き取り反映できるようにしている。	職員と管理者は話しやすい関係が出来ており、日々の業務の合間や申し送り時など、言いやすい環境を構築している。3月と9月には管理者と職員の面談が行われ、職員の思いを把握し運営へと反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談を行う時、個々の努力や実績を称えたり、反省点を一緒に考えながら各自次回の目標や計画を立て、向上心を持てるように取り組んでいる。希望の勤務時間や休みを取れるように考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	アセッサー取得者による技術指導や内部・外部への研修参加など、サービスの質の向上やスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加、運営推進会議(去年度から主に書面での開催)を行い、地域の方や同業者との情報共有、関係性を作り、サービスの質の向上となるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の見学時や段階的な面談を通して、本人・家族から聞き取りや話を聞き、関係性を少しずつ構築できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナウイルス感染症の予防を徹底し、施設の見学や面談、契約時に家族がお困りの事・今の状況など聞き取りを行い、介護計画へ反映できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の情報収集をし状態把握、ご意見を伺い、地域との連携を含め、支援内容を検討し、介護計画へ反映し支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションを大事にしながら入居者様から聞き取りを行い、本人の望む支援は何か、できる事は何か、と意見を汲み取っている。話しが困難な方は、共に過ごす中で気づきや表情・様子から察する事で支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお手紙、電話連絡時、想いやご意見、ご要望を伺い、ご理解・ご協力を得ている。コロナウイルスの影響で面会制限となっている事も多くあったが、その中でも関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症予防の観点から、町内会の行事、お祭りの中止、外食、外出に制限がつき、あまりできていないが、お盆の法要に、お寺にお参りには行け、ご住職さまともお会いできた。	以前は送迎サービスがある馴染みの理美容院に出向いていたが、現在は訪問理美容を2、3ヶ月に一度全員が利用している。コロナ禍のため外出や面会が制限される中、馴染みの関係が途切れないよう、利用者が望む支援を出来る範囲で行うよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが困難な方でも、職員が間に入り、架け橋となることで、関わりをもつ事ができたり、関係性を構築できるよう、環境、場面設定することで、入居者同士お互いに気持ちの共有や支え合っているように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、家族、本人が安心できるよう、最後まで経過をフォローし、連絡先も伺い、相談対応も随時行っている。退去後しばらく経過してからも家族が来館してくださる事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月ケア会議もあり、その際には必ず、本人と家族の意向も確認している。また、本人が想いを伝える事が困難な入居者には、家族に相談、代弁してもらい、本人を尊重したケアが行えるようにしている。	会話が困難な利用者もいるが、日常の会話や家族との話し合い、職員の気付きを職員全体で共有し、本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今まで暮らしていたご自宅へ伺い、本人の暮らし方など生活状況の把握に努めている。家族や本人に情報をいただきながら、日々の支援に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの家での過ごし方、暮らし方を確認する事や、日々の生活動作・言動から状態を観察、記録し情報共有しながら、今まで継続してきたことは、できるだけ継続できるような関わり方をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の声、医師の意見なども記録に残し、情報共有している。毎月のケア会議で意見交換を行い、本人にとってはどうすることが望ましいのか、意向はどうか、把握し計画書の中身に沿った支援を行っている。	計画作成担当職員を中心に、職員全員で利用者や家族の意向、日々の様子から介護計画について話し合い、医師からの意見を聞きながら作成している。短期は6か月、長期は1年で見直すが、状況に応じてその都度見直し、利用者や家族にも説明し捺印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録はワイズマンのケア記録に記載している。運営日誌にすべての方の情報を集約し、スタッフ間で情報共有。申し送りやケア会議などで介護計画の見直しや支援内容を話し合い、計画作成担当者と居室担当者が主となり、それぞれの気づきや意見を出し合い、情報交換、支援に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響もあり、オンライン研修も活用し、新しい知識を身に着け入居者の支援に活かせる様に取り組んでいる。また、毎月のケア会議時や電話連絡時など、その都度、家族にも意向を確認し、その時々ニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前の生活環境や地域とのつながりを把握し、入居後もコロナ禍中でも可能なかぎり、お墓まいりやお寺まいりなど、馴染みの場所へ行くなど、関係が継続できるように取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望・要望を確認し、かかりつけ医に継続して受診できるようにしている。また、協力医療機関の往診を希望される方にも対応している。受診等の報告は、家族に対して電話や手紙でも共有。受診時は日常生活の様子の手紙を作成し、医療機関に情報提供・共有している。	本人や家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。月1回、契約医の訪問診療があり、定期的に血液検査を受けるなど、適切な医療を受けることができる。歯科は必要に応じて、訪問治療を受けることができる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の際に日々の気付きや情報を共有し、何かあった際には電話での相談も行い、必要な助言、指示をもらい医療機関との関係作りに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関や地域連携室など、病院関係者との情報交換を随時行い、関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできる事とできない事、ターミナルケアについてを説明し、入居時など段階的に話している。本人や家族の意向等、随時確認しながら、かかりつけ医とも情報共有連携し、重度化した際の対応や終末期への対応の方針、共有している。	入居時に利用者や家族と重度化した時の対応について話し合い、合意の上文書を取り交わしている。状況の変化が表れた時には対応や内容について見直し、家族の理解を得ている。看取りは行っていないが、利用者や家族の意向を出来る範囲で取り入れ、スムーズに病院治療に移行できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師からも日常生活で気を付けることや、急変時の対応などを確認したり、急変時、事故発生時の対応について、フローチャートや緊急連絡網を作成している。毎日の申し送り時にも体調についての共有、連携、指示出しをし急変時等に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防とも連携し、年に2回の避難訓練・災害想定訓練を実施している。人員の少ない夜間を想定した訓練を多くし、本人や職員が安全に避難する事が出来るよう訓練を実施している。また、地域とも協定を結び協力体制を整えている。。	年2回避難訓練を実施し、6月は消防署立ち会いの元火事想定での避難訓練を実施。9月はコロナ禍の為事業所内での想定訓練を実施済み。町内会や近接する老人ホーム施設と避難場所や支援の協定を交わしており、口頭での確認も行っている。職員が発電機の使用方法を学ぶ機会も作っている。	水や食料の備蓄はあるが、全体に量が少なめで非常時には不足することが懸念される。全利用者と職員用の必要量を確認し適切な量を揃えた上で、賞味期限を記載した備蓄品リストを作成し定期的に見直すことを期待する。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、支援の際にはプライバシーや人格等に配慮した声掛けに努めており、不快感を与えないような対応に努めている。また、不適切なケアなどにも取り上げ、毎月のケア会議時にも再確認している。	利用者の気持ちを大切に、丁寧な声かけや適切な言葉使いを心がけ、尊厳や誇りを傷つけないように配慮している。個人情報の書類は事務スペースの戸棚の中に適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を行う上で、本人の希望や思いを聞き取り、自己決定が出来るような声かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑に行くことや、入浴の時間、好きなテレビ番組を見られるようにすることも含め、一人ひとりが、どのように過ごしたいかの聞き取りを行い、できるだけ、希望・意向に沿った支援が出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々髭剃りや身だしなみを整えており、外出や、お誕生日にはお化粧支援やマニキュアを塗ることもある。また、四季に合わせた衣類、帽子などの小物も準備し、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にチラシを見て旬の食材や、食べたい物を献立に取り入れ、時期を見てお彼岸にはおはぎ作りや、秋には漬物作り、畑の食材も取り入れ作りたい物を作っている。調理ができない方でも、本人が参加できるように一緒に盛り付けや、準備・片付けなど行っている。	担当者が利用者の希望を取り入れながら献立を作成し、行事食や弁当などを取り入れ、食事を楽しめるよう支援している。外食する機会が減っているため、敷地内でバーベキューを楽しんだり、利用者と相談して育てた菜園のトマトやサツマイモなどの野菜を収穫し食事に取り入れるなど、工夫を凝らしている。職員は利用者の希望を取り入れながら調理を行い、職員と共に皮むきや食器ふき、ニシン漬けを行う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態の悪い方には、トロミ剤の使用や、状態によってミキサー食にも対応している。食事の摂取量、水分量を記録し、必要な水分、栄養を確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを促し、ご自分で行えない方は一部介助、全介助している。一人ひとりの口腔内の状態によって、歯ブラシ、ロールブラシ、ウエッティの活用など行い、清潔に保てるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表を活用し、なるべくトイレで排泄できるように、ご自分でトイレに行ける方には見守りや声掛けを行い、自力でトイレに行くことが出来ない方には定期的に排泄支援を行っている。	排泄パターン表を活用し個々の排泄パターンを把握し、利用者の能力によってパッドや紙パンツを使用しながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間は見守りセンサーを活用し、安全に配慮しながらトイレへの誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方はかかりつけ医に相談し、下剤の処方や、普段から牛乳やヨーグルトなどの乳製品の提供、食物繊維の多いバナナやブロッコリーなどを多めに取り入れ提供し便秘予防に努めている。個々に応じて、エアロバイクや、手すり運動、館内歩行運動など行い、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する意向を確認し、基本的には午前入浴が多いが、希望によっては別日・午後でも入浴できるよう支援している。また、入浴剤や音楽が聴けるよう個々にそった支援をしている。	週2回を基本とし、利用者の希望に合わせてながら、1日2～3人の入浴支援を行っている。利用者は好みの入浴剤を使用したり、好きな音楽を聞きながら入浴を楽しんでいる。利用者の思いに寄り添い、同性介助の配慮もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々体調を確認し、本人の希望がある際や身体に無理ががからないよう、体調を見て日中でも居室で休むことが出来るよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストをファイリングし介護室にいつでも見られるように置いている。服薬変更があった際等も、記録、申し送りを行うことで情報共有し症状の変化の確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の様子を確認し、楽しさや達成感、やりがいを感じられるような役割支援をしている。本人や家族からも情報共有し楽しみごとを行うことが出来るよう努めている。個別や複数人など状況に応じて気分転換等にもつながるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日や希望や要望がある際は外に外気浴や施設周辺のお散歩に行けるよう支援を行っている。また、コロナウイルスで中々外出できない状況が続いたが、状況によっては家族との連携を図り、可能な範囲で外出することが出来るよう支援を行っている。	外出がしにくい状況が続き、利用者の外出意欲が消極的になりがちなか中、職員が声をかけ事業所周辺を散歩し外気に触れることができるよう心がけている。菜園や花壇の世話や、車を利用して車内から花見や紅葉を楽しむなどの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と希望があれば、現金を自分で管理されている方もいる。困難な方でも、自由に使えるようにお小遣いを準備するなどし、近隣への買い物や移動販売等が来た際には、本人が買い物をすることが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際や、連絡を必要と感じた時には、家族と電話連絡できるようにしている。また難聴の方でも職員が介入することで、電話ができるようにしている。手紙(ハガキ)の通信支援も行えるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、特にテレビの音量や職員の声量、照明、温度に配慮し、不快な刺激にならないようにしている。また、季節ごとに掲示物を工夫し、季節を感じやすく、居心地よく過ごしていただけるようにしている。	職員が手作りした飾り付けや行事ごとに撮影した利用者の写真を、利用者とともに飾り付けしながら居心地よく過ごせるよう工夫している。事業所が飼育している犬や金魚、亀などを可愛がり、世話の手伝いをする利用者もいる。行事ごとにレクリエーションを開催したり、家族の要望を受け体操も取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室や居間など、個別や複数人で過ごせるような環境、気の合う方と座れるような椅子の配置などにし、必要に応じた環境整備に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室には、もともと自宅で使っていた家具や雑貨、お仏壇など、本人にとってなじみの物を持ってきていただき、環境ストレスの軽減をはかり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者は使いなれた家具やテレビ、仏壇など好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。壁には写真や作品、賞状など思い出の品を飾り、温かい雰囲気でも過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干しや炊事、掃除など本人が行えることは状況や状態に合わせ、職員が見守り等行っている。場所の見当がつくよう、トイレや居室の表れなど本人がなるべくわかるように配慮している。分からなくなっている部分は職員と一緒に、行い、出来ることやわかることに配慮しながら支援を行っている。通路に物をおかないようにしたり、電気配線コードなども、引っ掛からないよう安全に配慮しながら、自立生活を安全に行えるよう工夫している。		